

診調組 D-2参考
22.6.30

中医協 診-2
21.5.20

平成 20 年度特別調査 再入院（再転棟）に係る調査について

1. 調査の目的

- 医療効率化の一つの指標として在院日数が用いられるが、在院日数の短縮が図られているなかで、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院（再転棟）の頻度やその理由を指標として検証する。

2. 調査方法

(1) 調査方法

○ データ抽出条件

7 月から 12 月までの退院患者に係る調査実施期間中に収集されたデータのうち 7 月から 10 月の退院患者データから下記条件でデータを抽出した。

再入院調査データ

- ① 4 月 1 日以降入院、退院日が 7 月 1 日から 10 月 31 日までの患者を対象とした。
- ② データ識別 ID の重複があり、前回入院から 6 週間以内に再入院があった患者を再入院ありと判定した。
- ③ 一般病棟入院ありの患者を集計対象とした。
- ④ 前回入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と今回入院の「入院の契機となった傷病名」から決定される診断群分類の上 6 桁が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再入院率を集計した。

再転棟調査データ

- ① 4 月 1 日以降入院、退院日又は転棟日が 7 月 1 日から 10 月 31 日までの患者を対象とした。
- ② 1 入院内で一般病棟からその他の病棟へ転棟し、さらに一般病棟へ再転棟した患者を対象とした。
- ③ 前回一般病棟入院の「医療資源を最も投入した傷病名」と今回一般病棟入院の「入院の契機となった傷病名」から決定される診断群分類の上 6 桁が一致した場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として、両者の再転棟率を集計した。

- 再入院（再転棟）ありと判定された患者について「再入院（再転棟）調査票」により再入院（再転棟）の状況を調査した。
- 再入院調査は平成 20 年度分について調査を実施し、昨年実施した 6 年間のデータと共に、平成 14 年度から 20 年度の 6 年間の変化を把握す

ることを目的とした。（全医療機関で今年度調査対象となった再入院症例は約 315,000 症例）

- 再転棟調査は 7 月から 10 月の退院患者の様式 1 を用いて、一般病棟からその他の病棟へ転棟し、再び一般病棟へ転棟した患者を抽出し、再転棟患者の存在する病院へ調査票を配布し、再転棟の理由を調査した。（全対象医療機関で調査対象となった再転棟数は約 2,300 件）

(2) 調査対象病院

- 再入院調査対象病院は DPC 対象病院 718 病院と DPC 準備病院 841 病院の計 1,559 病院。
- 再転棟調査対象病院は再転棟患者の存在する DPC 対象病院 247 病院と DPC 準備病院 343 病院の計 590 病院。

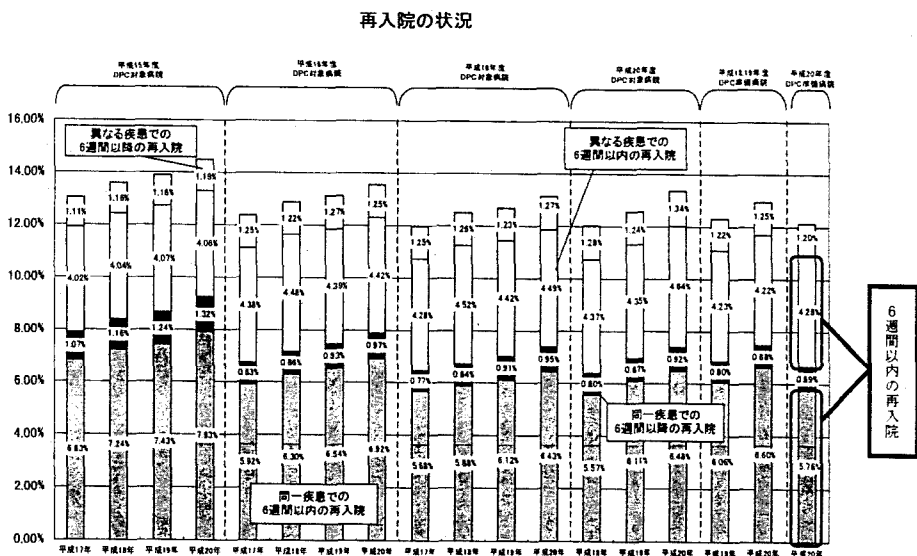
(3) 調査票

- 症例毎に基本情報を記載した調査票(別紙 1・再入院調査のみ)とデータ入力用のエクセルシート(別紙 2)を送付して、調査の負荷軽減を図るとともに提出データ形式の統一を図った。

3. 調査の実施状況

平成 20 年 12 月 22 日 調査票の発送
 平成 21 年 1 月 31 日 データ提出期限
 平成 21 年 2 月～3 月 エラーチェック・データ集計等

(参考) 下図のとおり、再入院率の変化は、主として 6 週間以内の再入院において起こっていることから、本調査においては、6 週間以内の再入院に就いて理由を調査。



4. 調査結果要約

再入院に係る調査

(1) 平成 20 年度調査対象医療機関数及び分析データ数年次推移 (図表 1)

平成 20 年度の調査対象病院は 1,559 医療機関であり、全医療機関から回答が得られた。その中で施設類型別の集計対象とした医療機関は、調査対象となっている全ての年度で 7 月～10 月退院患者の 4 ヶ月間のデータが揃っている医療機関のみとし、1,533 病院を今年度の施設類型別分析対象とした。

分析対象退院症例数 2,864,827 症例のうち再入院調査の対象症例数は 314,954 症例 (再入院率 11.0%) であった。そのうち回答症例数は 314,883 症例 (回答率 99.98%) であった。

(2) 施設類型別集計

①年度別・再入院率 (図表 2-①)

DPC による支払いを受けているかどうかに関わらず、経年比較が行える施設類型において再入院率は年々増加傾向にある。施設類型全体では再入院率が 11.0%と前年度の 10.6%と比較して約 0.4%増となった。

②前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率・割合 (図表 2-②)

前年度と比較すると、全ての施設類型において前回入院と同一病名の計画的再入院の比率が増加し、これが全体の再入院率の増加原因となっている。

③計画的再入院における理由の内訳 (退院症例に対する再入院症例数比率) (図表 2-③)

前年度と比較し、全ての施設類型において「計画的手術・処置のため」の理由に増加傾向が見られた。「化学療法・放射線療法のため」は平成 20 年度 DPC 対象病院以外の全ての施設類型で増加が見られた。

④予期された再入院における理由の内訳 (退院症例に対する再入院症例数比率) (図表 2-④)

平成 16 年度 DPC 対象病院では「予期された疾病の悪化、再発のため」の理由が減少したことにより全体の比率が減少した。その他の全ての施設類型では、「予期された疾病の悪化、再発のため」と「予期された合併症発症のため」の理由が増加したことにより、前年度から全体の比率が増加した。

⑤ 予期せぬ再入院における理由の内訳（退院症例に対する再入院症例数比率）（図表 2-⑤）

前年度と比較し、平成 20 年度 DPC 対象病院は「他疾患発症のため」の増加により、予期せぬ再入院比率が若干増加した。それ以外の平成 15～18 年度 DPC 対象病院では全体的に予期せぬ再入院比率が減少した。平成 18,19 年度 DPC 準備病院の比率にはほとんど変化が見られなかった。

⑥ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑥）

計画的再入院が増加した平成 15～18 年度 DPC 対象病院、平成 18,19 年度 DPC 準備病院の「化学療法・放射線療法のため」に該当した再入院を MDC 別に前年度と比較して見ると、これらのいずれの施設類型においても「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」が増加していた。平成 16 年度 DPC 対象病院では「MDC12（女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩）」が増加が見られた。他の MDC では前年度から大きな変化は見られなかった。

⑦ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑦）

計画的再入院の上位 15 疾患を見ると、どの施設類型でも前年度から増加している主な疾患は、「大腸の悪性腫瘍（060035）」、「直腸肛門の悪性腫瘍（060040）」、「胃の悪性腫瘍（060020）」であった。

⑧ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法あり」を除いた前回入院と今回入院の病名同異別・退院症例に対する再入院事由比率（図表 2-⑧）

平成 16 年度 DPC 対象病院以外は増加傾向を示しており、主に計画的再入院比率が増えている。減少傾向のある平成 16 年度 DPC 対象病院では前回の入院と異なる病名の予期せぬ再入院が減少している。

⑨ 前回再入院からの期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑨）

図表 2-⑨-1 で前年度と比較して見ると、平成 15～18 年度 DPC 対象病院の 3 日以内の再入院比率は減少している。4 日～7 日以内の再入院比率はわずかに増加している。再入院割合（図表 2-⑨-2）を通年で見ると 0 日～7 日以内の短期の再入院割合は他の期間と比べて年々減少傾向にあるのがわかる。再入院比率の増加は 15 日～28 日以内の再入院で最も大きく、次いで 8 日～14 日以内の再入院で大きい。

⑩ 計画的再入院における理由のうち「化学療法・放射線療法のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑩）

3 日以内の再入院比率は、平成 15～18 年度 DPC 対象病院において大きく減少していた。また、4 日～7 日以内の再入院比率はやや増加傾向であった。

全体的な傾向としては 0 日～14 日以内の再入院割合は減少しており、15 日以上再入院に増加傾向が見られた。

⑪ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」の期間別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑪）

3 日以内の再入院比率は、平成 15～18 年度 DPC 対象病院において、減少又は横ばいだった。また、その他の期間の再入院比率は、増加又は横ばいであった。

⑫ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した症例の MDC 別・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑫）

全ての施設類型において、「MDC06（消化器系疾患、肝臓・胆道・膵臓疾患）」の再入院比率が増加していた。割合で見ると、どの施設類型も前年度からの MDC 別割合の変化は、ほとんど見られなかった。

⑬ 計画的再入院における理由のうち「検査入院後手術のため」と「計画的手術・処置のため」に該当した疾患名別（上位 15 疾患）・退院症例に対する再入院比率・割合（図表 2-⑬）

上位 15 疾患別で見ると、前年度と比較して増加傾向のある施設類型では、主に「狭心症、慢性虚血性心疾患」、「白内障、水晶体の疾患」等に増加が見られるが、疾患別割合で年度ごとに見ると、特に大きな変化は見られなかった。

⑭ 同一病名で「化学療法・放射線療法あり」の再入院回数別在院日数（図表 2-⑭）

全ての施設類型において 1 回目に比べ 2 回目入院の在院日数は短くなり、2 回目以降の在院日数はほとんど差がないという傾向が見られた。また、全ての施設類型において、1 回目入院の在院日数が減少傾向であった。

⑮ 1 患者あたりの再入院回数（退院症例数/実患者数）（図表 2-⑮）

前年度と比較して平成 15～16 年度 DPC 対象病院、平成 18,19 年度 DPC 準備病院において増加傾向が見られた。

再転棟に係る調査

- (3) 平成 20 年度調査対象医療機関数及び分析データ数 (図表 3)
調査の対象となった 1,559 医療機関のうち、再転棟症例の存在する 590 医療機関に調査票を配布し、全医療機関から回答が得られた。
分析対象退院症例数 2,864,827 症例のうち分析対象再転棟数は 2,372 (再転棟率 0.08%) であった。そのうち回答数は 2,361 (回答率 99.5%) であった。
- (4) 施設類型別集計
- ①年度別・再転棟率 (図表 4-①)
前年度の再転棟率 (参考値) と比較し、どの施設類型も減少傾向が見られた。DPC 準備病院の再転棟率が高く、特に平成 20 年度 DPC 準備病院が高い数値を示した。
- ②前回一般病棟と今回一般病棟の病名同異別・退院症例に対する再転棟事由比率・割合 (図表 4-②)
件数が一定数以上あり、ばらつきの少ない平成 20 年度 DPC 対象病院、平成 18,19 年度 DPC 準備病院、平成 20 年度準備病院の割合で見ると病名が同一の再転棟のほうがやや多く、また、予期せぬ再転棟の割合が大きいことがわかった。
- ③計画的再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-③)
計画的再転棟で比率の大きい理由は「計画的手術・処置のため」であった。
- ④予期された再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-④)
予期された再転棟で比率の大きい理由は「予期された疾患の悪化、再発のため」であった。
- ⑤予期せぬ再転棟における理由の内訳 (退院症例に対する再転棟数比率) (図表 4-⑤)
予期せぬ再転棟で最も比率の大きい理由は「他疾患発症のため」であった。
- ⑥MDC 別・退院症例に対する再転棟比率・割合 (図表 4-⑥)
どの施設類型でも似通った傾向が見られ、割合の大きい MDC は「MDC01 (神経系疾患)」、「MDC04 (呼吸器系疾患)」、「MDC16 (外傷・熱傷・中毒)」等であった。
- ⑦前回一般病棟から今回一般病棟への転棟期間別・退院症例に対する再転棟比率 (図表 4-⑦)
全ての施設類型で、15 日以上長期の再転棟の割合が大きかった。

- (5) 医療機関別集計 (図表 5 年度別・再入院率)
再入院率は医療機関によりかなりのばらつきが見られた。平成 20 年度において、全ての医療機関の中で最も再入院率が高かった医療機関が 43.4%であった。一方、最も低かった医療機関は 0%であった。
- (6) 医療機関別集計 (図表 6 再転棟率)
再転棟率が 1.0%以上の病院は、76 病院のみであった。その中で最も再転棟率が高かった医療機関では 11.7%であった。
- (7) 結論
平成 20 年度においても、再入院率が増加する傾向は続いていた。
主な再入院率増加の原因は計画的再入院の増加にあり、その中でも特に「化学療法・放射線療法のため」の理由による再入院の増加が大半を占めていた。
また、3 日以内の再入院比率は減少し、4 日～7 日以内再入院比率はわずかに増加している。平成 20 年度から DPC の診療報酬において、同一疾患で 3 日以内に再入院した場合は一連の入院として扱われることとなった。3 日以内及び 4 日～7 日以内の再入院については、今後も注視していくことが必要である。
今回、全医療機関 (1,559 病院) に対して新たに再転棟調査として再入院と同様に理由を調査したが、再転棟があったのは 590 病院であり、そのうち再転棟率が 1.0%以上の病院は 76 病院のみと少数であった。

◇ 医療機関名：
 ◇ 患者データ識別番号： 生年月日（西暦）：
 ◇ 診療科コード（前回退院時）：
 診断群分類（前回退院時）：
 最医資病名（前回退院時）：
 入院日： ICD - 10：
 退院日： 退院時転帰：
 入院目的：
 ◇ 診療科コード（今回退院時）：
 診断群分類（今回退院時）：
 最医資病名（今回退院時）：
 入院日： ICD - 10：
 退院日： 退院時転帰：
 入院目的：

◇ 再入院の理由：
 「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。
 「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があって再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。
 項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。

* 計画的再入院
 ① 検査入院後手術のため
 ② 計画的手術・処置のため
 ③ 化学療法・放射線療法のため
 ④ 定期検査のため
 ⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため
 ⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため
 ⑦ その他（ ）

* 予期された再入院
 ① 予期された疾病の悪化、再発のため
 ② 予期された合併症発症のため
 ③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため
 ④ 前回入院において患者の都合により退院したため
 ⑤ その他（ ）

* 予期せぬ再入院
 ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため
 ② 予期せぬ合併症発症のため
 ③ 他疾患発症のため
 ④ その他（ ）

再入院理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再入院	① 検査入院後手術のため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で入院して観血的整復術をうけた。今回、抜釘手術のため入院。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	前回、極度の貧血のため入院、子宮筋腫の診断のもと貧血に対する治療を行い退院、今回、貧血が改善したので手術（単純子宮全摘術）目的で入院。
	⑦ その他	
* 予期された再入院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したので入院。
	③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため	前回、肺小細胞癌で入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者の QOL の向上を図るため退院、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり入院。
	④ 前回入院において患者の都合により退院したため	大腸ポリープの内視鏡手術のため入院したが、患者親戚に不幸があり、下血等の症状がなかったので退院。所用も片付いたので、再度入院してポリープ切除をうけた。
	⑤ その他	
* 予期せぬ再入院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので入院。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。
	④ その他	

再転棟理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再転棟	① 検査で DPC 算定病棟へ入院後手術のため	狭心症で前回カテーテル検査のため DPC 算定病棟へ入院、今回は冠動脈形成術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	② 計画的な手術・処置のため	前回、骨折で DPC 算定病棟へ入院して観血的整復術をうけた。今回、抜釘手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため DPC 算定病棟へ入院、今回も化学療法を受けるため DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑤ 前回 DPC 算定病棟での入院時、検査・手術を中止して一時転棟したため	白内障手術のため DPC 算定病棟へ入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して転棟、軽快したので2週間後に手術のため DPC 算定病棟へ転棟。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時転棟したため	前回、極度の貧血のため DPC 算定病棟へ入院、子宮体癌の診断のもと貧血に対する治療を行い転棟、今回、貧血が改善したので手術(子宮悪性腫瘍手術)目的で DPC 算定病棟へ転棟。
	⑦ その他	
* 予期された再転棟	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で DPC 算定病棟へ入院し治療をうけて転棟、療養中であつたが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、転棟時に誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。転棟一週間後誤嚥性肺炎が発症したので DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 患者の QOL 向上のため一時転棟したため	前回、肺小細胞癌で DPC 算定病棟へ入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者の QOL の向上を図るため転棟、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり DPC 算定病棟へ転棟。
	④ 前回 DPC 算定病棟での入院時において患者の都合により転棟したため	前回 DPC 算定病棟での入院時に、患者が手術を希望しなかった為手術を実施せず転棟となったが病状の変化により手術を実施することとなり、再度 DPC 算定病棟へ転棟し手術を実施した。
	⑤ その他	

* 予期せぬ再転棟	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で DPC 算定病棟へ入院、治療をうけて軽快転棟、転棟時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。転棟1ヶ月後風邪をひき、心不全になったので DPC 算定病棟へ転棟。
	② 予期せぬ合併症発症のため	前回、食道癌治療のため DPC 算定病棟へ入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。転棟1週間後誤嚥性肺炎のため DPC 算定病棟へ転棟。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて転棟、その5日後急性心筋梗塞を発症して DPC 算定病棟へ転棟。
	④ その他	

※DPC 算定病棟とは、以下の入院基本料等を届出ている病棟をいう。

- ・一般病棟入院基本料
- ・特定機能病院入院基本料(一般)
- ・専門病院入院基本料
- ・救命救急入院料
- ・特定集中治療室管理料
- ・ハイケアユニット入院医療管理料
- ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- ・新生児特定集中治療室管理料
- ・総合周産期特定集中治療室管理料
- ・広範囲熱傷特定集中治療室管理料
- ・一類感染症患者入院医療管理料
- ・小児入院医療管理料

